

上町古墳

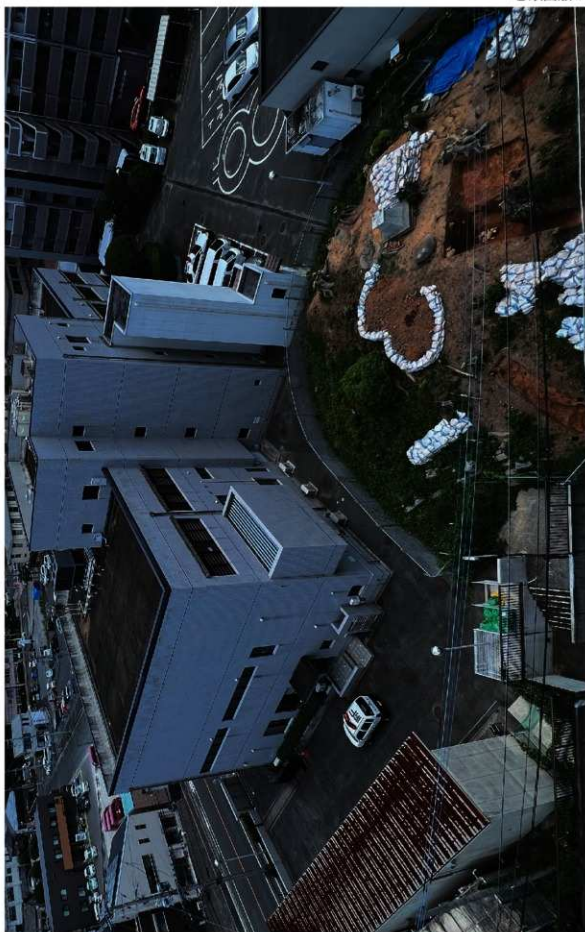
—市道横町線拡幅に伴う古墳の調査—

糸島市文化財調査報告書

第 31 集

2024

糸 島 市



上町古墳南西から市内北部を望む



上町古墳全景（南西から）

序

本書は令和4年度に糸島市前原中央字上町における市道拡幅に伴い実施した上町古墳の発掘調査成果をまとめたものです。

本古墳が所在する上町周辺では弥生時代～古墳時代前期の甕棺や石棺などの墳墓が複数発見され、素環頭大刀など貴重な遺物が出土しています。本古墳は昔から知られていた古墳ではありますが、今回が初めての発掘調査となりました。

本書は、発掘調査の貴重な成果をまとめ、皆様に公開するものです。当地の歴史を解明する上での一助になれば幸いです。

なお、末筆となりましたが、発掘調査にあたってご理解とご協力を頂きました周辺住民の方々ならびに報告書作成にあたって、ご協力いただきました方々に厚く御礼申し上げます。

令和6年3月31日

糸島市長

月形 祐二

例言

1. 本書は市道拡幅に伴い、令和4年度に糸島市が行なった上町古墳の発掘調査の記録である。
2. 遺構の実測にあたっては秋田雄也が行なった。
3. 遺構の写真撮影は秋田が行った。
4. 遺物の復元は、田中阿早緑、藤野さゆり、蔵田和美、内山久世、山崎高雄、田尻裕泰が行った。また、遺構、遺物のトレースは藤野、内山が行った。
5. 遺物の実測は秋田、写真撮影は栗野翔太、田中の協力を得て秋田が行った。
6. 本書に掲載する全体図及び遺構図で使用した座標は世界測地系平面座標第Ⅱ系に準拠した。また、図中に使用する方位は国土座標の座標北で、真北から0° 19' 西偏している。
7. 本調査に伴う出土資料及び記録類は糸島市に収蔵保管し、利用に供する予定である。
8. 本書の執筆及び編集は、秋田が行った。

本文目次

第1章	はじめに	
	I. 調査に至る経緯 1
	II. 調査の組織 1
第2章	位置と環境 2
第3章	調査の記録	
	I. 調査の概要 6
	II. 遺構と遺物 6
	(1) 墳丘	
	(2) 第1トレンチ	
	(3) 墓道	
	(4) 排水溝	
	(5) 第2トレンチ 9
	(6) 第3トレンチ 11
第4章	まとめ	

挿図目次

第1図	糸島市の所在地 2
第2図	糸島市主要遺跡分布図 (1/50,000) 3
第3図	上町古墳周辺遺跡分布図 (1/5,000) 4
第4図	上町古墳墳丘測量図 (1/200) 5
第5図	第1トレンチ平面図及び土層断面図 (1/80) 7
第6図	第1トレンチ排水溝平面図及び断面図 (1/40) 8
第7図	上町古墳出土遺物実測図① (1/3) 10
第8図	上町古墳出土遺物実測図② (1/3) 11
第9図	第2トレンチ、第3トレンチ平面図及び土層断面図 (1/40) 12

図版目次

巻頭図版1	上町古墳南西から市内北部を望む	図版3-2	第1トレンチ排水溝石組検出状況
巻頭図版2	上町古墳全景(南西から)	図版3-3	第2トレンチ全景(北から)
図版1-1	上町古墳南西から市内北部を望む	図版4-1	第3トレンチ全景(西から)
図版1-2	上町古墳全景(南西から)	図版4-2	第1トレンチ出土遺物①
図版2-1	第1トレンチ東側土層	図版5	第1トレンチ出土遺物②
図版2-2	第1トレンチ西側土層	図版6	第1トレンチ出土遺物③
図版2-3	第1トレンチ北側土層	図版7	第1トレンチ出土遺物④、 第2・3トレンチ出土遺物
図版3-1	第1トレンチ北壁墳丘盛土		

第1章 はじめに

I.調査に至る経緯

令和4年5月12日付で、糸島市建設都市部建設課から糸島市前原の市道横町線拡幅工事に
関して、埋蔵文化財発掘調査の通知（文化財保護法第94条第1項）が、糸島市地域振
興部文化課に対して提出された。

対象の古墳は周知の埋蔵文化財包蔵地であり、古墳が破壊される場合、記録保存のため
発掘調査が必要であることが明らかとなった。

文化課は、開発側と協議を行い、破壊される箇所を調査対象とすることで合意した。発
掘調査は令和4年6月15日に着手し、令和4年8月15日に終了した。

II.調査の組織

発掘調査および報告書作成に係る組織は以下のとおりである。

調査主体者 糸島市

調査地点 上町古墳（糸島市前原中央一丁目87-3）

発掘調査 令和4年度

総括 地域振興部長 波多江修士

文化課長 村上敦

文化課長補佐兼文化財係長 河合修

事前審査 同 文化財係 主幹 瓜生秀文

調査担当 同 文化財係 主事 秋田雄也

報告書作成 令和5年度

総括 地域振興部長 波多江修士

文化課長 村上敦

文化課長補佐兼文化財係長 河合修

報告書担当 同 文化財係 主任 秋田雄也

第2章 位置と環境

糸島市は福岡県の西端に位置し、西は唐津市、南は佐賀市と境を接する。

前原地域は糸島市のほぼ中央部に位置する。上町古墳は雷山川、長野川に挟まれた舌状丘陵上に位置している。

周辺における主な遺跡としては、上町向原遺跡がある。現在は伊都文化会館や前原小学校が建設されている。この遺跡は丘陵の先端部に位置しており、周囲は糸島低地帯が広がる。昭和15(1940)年前後には旧糸島高等女学校の運動場工事中に50余個の甕棺が出土し、昭和32(1957)年には旧糸島高等女学校北棟校舎の中央部直下にあった箱式石棺墓が破壊され、発見に至った。石棺内は赤く塗られていたようで棺外西側からは素環頭大刀が一振副葬されていた。さらに同年、旧奉安殿の西側から弥生時代中期中葉、古墳時代前期の2基の甕棺墓が発掘された。この時は渡辺正気氏らが調査している。なお、甕棺墓発見時に渡辺氏が古老に聞いた話では、女学校建設以前には封土があり、建設時に削ったこと、甕棺出土地点付近にも円墳のような塚があったという話から、近隣に古墳が複数あり、箱式石棺も古墳の主体部だった可能性がある。その後、昭和60(1985)年に伊都文化会館建設に伴う工事に先立ち、前原町が調査を実施した。丘陵東側傾斜地から甕棺墓16基のほか、木棺墓や石蓋土墳墓など多くの墓群が確認されている。この遺跡は丘陵先端付近に位置し、近世に埋め立てられる前は海を間近に見ることができたと考えられる。

近隣の古墳時代の墳墓としては先述した、上町向原遺跡の箱式石棺や甕棺墓が挙げられ、約1.5km東に向かうと潤神社古墳がある。現在、潤神社が建立されている丘は古墳時代前期頃の古墳とされ、墳丘の南西裾部に前方部のように見える残丘があり、前方後円墳の可能性がある。これまで調査は実施されていないため、詳細は不明。

以上のように周辺には古墳や同時期の墳墓も少ない。上町古墳の単独性が目立つような環境となっている。

<参考文献>

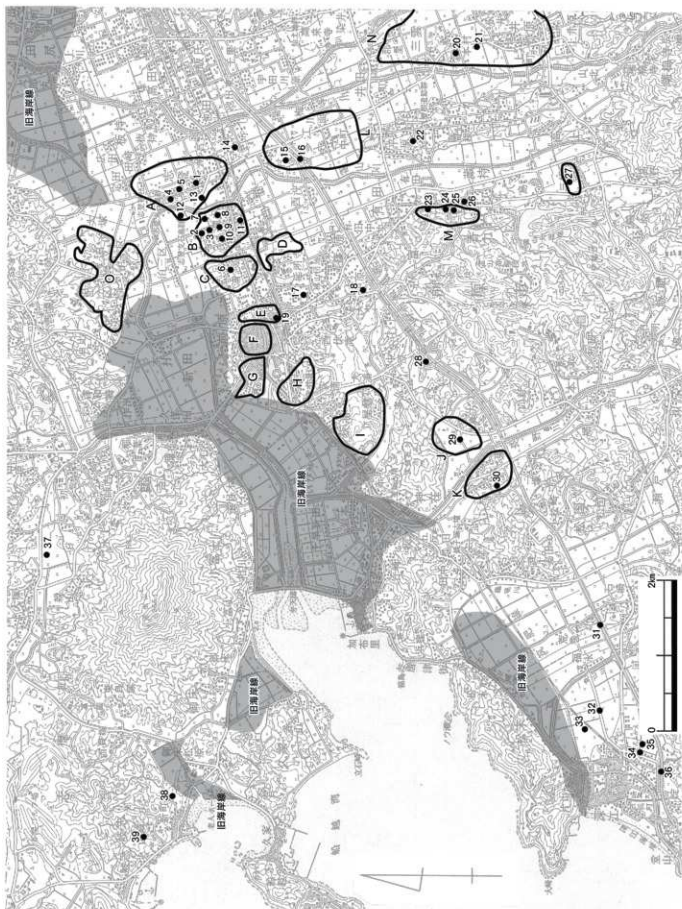
渡辺正気1960「福岡県糸島郡旧糸島高等女学校校庭出土の甕棺」『史淵』81

岡部裕俊編1988「前原地区遺跡群 I」前原町教育委員会

岡部裕俊編1992「前原地区遺跡群 II」前原町教育委員会



第1図 糸島市の所在地



第2図 米島市主要通路分布図 (1/50,000)

- 1.志登橋本通路 2.丸丸田通路 3.瀧古屋敷通路 4.志登尾北通路 5.志登運輸通路 6.浦志本村通路 7.岡地頭給通路 8.岡中町通路 9.岡番田通路 10.洞神社古堤 11.洞帯丁田通路 12.志登文石畠群 13.志登松本通路 14.池田井田通路 15.波多江丹波守屋敷通路 16.波多江通路 17.藤原新屋敷通路 18.上塚子通路 19.上町古横 20.三雲南小路通路 21.井原ヤリミゾ通路 22.平原通路 23.蔵持横通路 24.蔵持古屋敷通路 25.蔵持通路 26.蔵持寺ノ筋通路 27.三坂七尾通路 28.赤丸尾通路 29.東五反田通路 30.東下田通路 31.石崎・曲り田通路 32.木舟・三本松通路 33.木舟の森通路 34.深江・井牟田通路 35.深江城崎通路 36.塚田通路 37.一の町通路 38.御床松原通路 39.海傍寺通路
- A.志登通路群 B.岡通路群 C.浦志通路群 D.藤原東通路群 E.上町向原通路群 F.北本町通路群 G.北新地通路群 H.岡井町通路群 I.萩浦通路群 J.東五反田通路群 K.東通路群 L.波多江通路群 M.蔵持通路群 N.三雲・井原通路 O.沿道通路群



- 1.上町古墳 2.上町向原遺跡 3.上町相原遺跡 4.上町木下遺跡 5.浦志遺跡A地点
6.保原新築遺跡 7.保原岸田遺跡 8.糸高遺跡

第3図 上町古墳周辺遺跡分布図 (1/5,000)

第3章 調査の記録

I. 調査の概要

上町古墳は糸島警察署の裏に位置している。調査前は墳頂に祠が残され、大きな樹木も繁茂し、鬱蒼とした森ようになっていた。主体部は既に盗掘を受けていたようで、石室を構築していたと思われる大きな石材が露出している。

市道拡幅工事により、古墳南側が破壊を受ける事になるため、南側裾部にトレンチを3箇所設定した。結果、墓道の一部と古墳の石室内から延びる排水施設と考えられる石組を検出し、墳丘は地山に盛り土を行っていることが判明した。

II. 遺構と遺物

(1) 墳丘(第4図)

上町古墳は市街地の中にあるため、警察署や道路など周辺の開発が盛んで、古墳は大きく削られている。今回の調査でも裾部は削平されていることが分かった。第1トレンチの土層を確認したところ、地山に盛り土として赤褐色土と黄褐色土を交互に盛って(第1トレンチ北壁⑥、⑧、⑩、⑫、⑮、⑰、⑲層)、その後一度墓道構築のために地山を溝状に大きく削った後、石組を作るという方法を取っている。一部、墳丘から流出した土(第1トレンチ東壁⑦、⑧層)が堆積している。

(2) 第1トレンチ(第4、5図)

中央のトレンチを第1トレンチとし、西側を第2トレンチ、東側を第3トレンチとしている。当初、南裾部方向から真っ直ぐにトレンチを入れたところ、石組のようなものが確認できたため、北側に約0.8m、東側に約3.0m拡張している。

(3) 墓道(第6図)

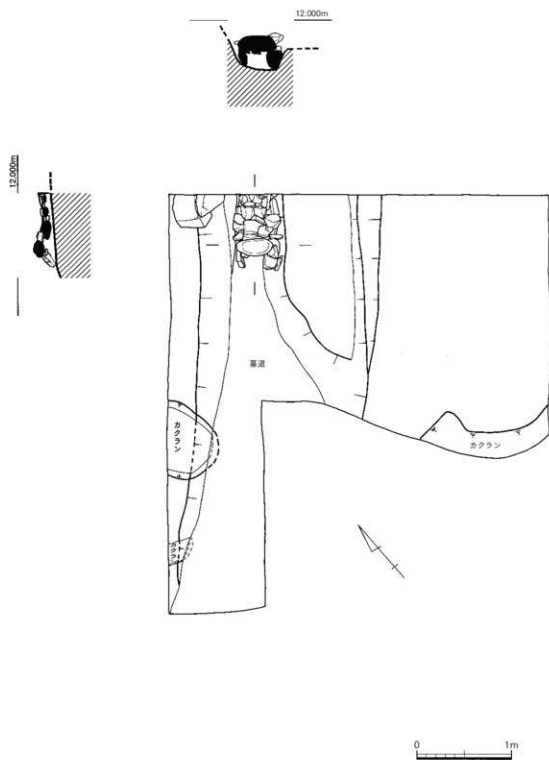
墓道は第1トレンチの長さ、4.35mを検出した。緩やかなハの字を描きながら伸びる。墓道入口東側は大きな切り株があり、傾斜地でもあったため安全を考慮して掘削を断念した。墓道入口を中央部で反転させると幅約1.94mとなる。

(4) 排水溝(第5、6図)

第1トレンチ北側奥で石組を検出した。当初は手前の石材しか確認できていなかったが、石が組まれている可能性があり、トレンチを拡張した。石材は地山を溝状に掘り込んだ幅約40.0～55.0cmに合わせて組まれている。石組は主に玄武岩と花崗岩で構成されており、一番手前には丸みを帯びた大きさ約38.0cmほどの玄武岩を支えるため、支石を左右に設置する。その後ろからは中型の石材を上石にしなから、やや小型の石材で中央に溝状の空間ができるように支えている。当初は積み石と思われたが、他の古墳の例を考えると、排水溝の一部ではないかと考えられる。南端は石材の配置から排水溝の出水口の可能性がある。排水溝の石組の高さは約34.0cmである。



第4図 上町古墳墳丘測量図 (1/200)



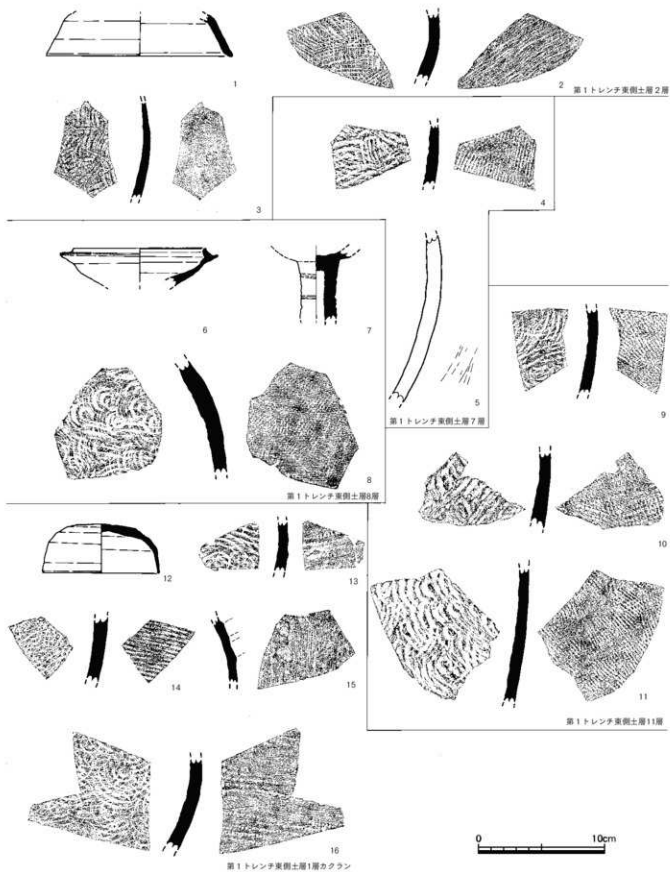
第6図 第1トレンチ排水溝平面図及び断面図(1/40)

出土遺物（第7、8図）

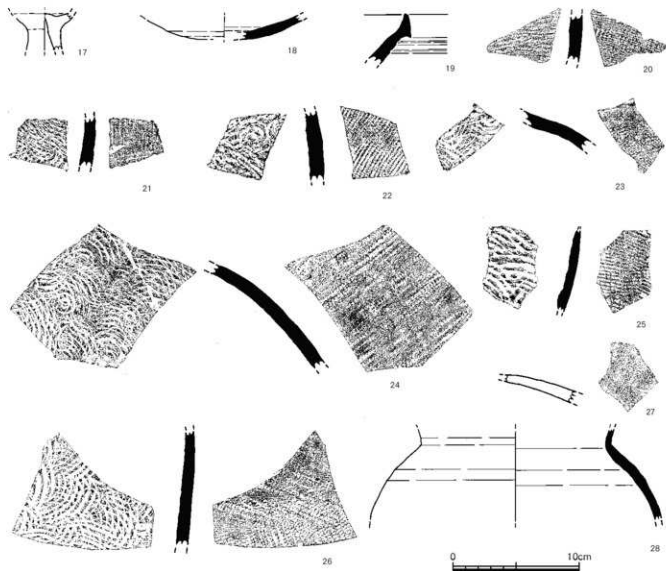
図内の出土遺物は各土層ごとに配置した。1～3は第1トレンチ、東側2層（暗赤茶褐色土層）から出土したものである。1は須恵器杯蓋で口径14.6cmを測る。淡青灰色を呈し、内外面に藁のような付着物の痕跡が赤く残っている。時期はTK209と考えられる。2は甕の胴部である。内面は格子目叩き、外面は平行叩きである。3も甕の胴部。外面の叩きは摩滅しており、内面は同心円文の当て具痕が残る。4、5は東側7層（暗黒茶褐色土）出土。4は甕の胴部で外面は叩きの後に一部ナデている。内面は同心円文の当て具痕。5は土師器甕の胴部で内外面ともに摩滅しており、調整は外面の一部にハケメが残るのみである。6～8は東側8層（暗褐色土）から出土。6は杯身で、口径12.4cmを測る。青灰色で焼成も良好。受け部直下の器壁がかなり薄くなっている。時期はTK209頃と考えられる。7は高杯の脚部である。綺麗な青灰色で焼成も良好。2条の沈線が刻まれる。杯部には一部自然釉が残る。8は壺の胴部で、頸部から胴部中央へ向かう部分であろう。外面は格子目叩きの上から回転板ナデを行う。内面は同心円文の当て具痕である。9～11は第1トレンチ東側11層（暗黄赤褐色土）から出土した甕の胴部である。9は8と同じく、外面は格子目叩きの後に回転板ナデを行う。内面は同心円文の当て具痕を施す。10は外面を格子目叩きした後回転板ナデを施す。内面は同心円文叩き。11は他の甕の胴部と比べてやや薄手の作りであり、厚さは0.9cmを測る。内面は同心円文の当て具痕を残す。12～16は東側1層（攪乱）から出土したものである。12は杯蓋である。口径9.2cmで、上部は回転ヘラ削りを行う。焼成はやや甘く暗灰白色を呈す。ちょうど小型化していく時期でTK217を示す。13は甕の胴部。外面は叩きの上から回転板ナデを施す。内面は同心円文の当て具痕。14も甕の胴部。外面は平行叩きを行い、内面は同心円文が残る。15は提瓶の肩部。外面はカキ目で、耳の痕跡が残る。器壁はやや薄く0.6cmを測る。内面には回転横ナデを施している。16は甕の胴部で焼成は良好。外面は叩きの後に回転ナデを施す。内面は同心円文の当て具痕が残る。17～25は第1トレンチ表土から出土した。17は土師器高杯の脚部付け根。摩滅が激しく、外面は調整不明瞭。内面は剥離している。18は杯身の底部で、回転ヘラ削りを行う。19は甕の口縁部。綺麗な青灰色をしており、焼成は良好。20は甕の胴部である。外面は回転板ナデ、内面には当て具痕の上に指押さえを施す。21も甕の胴部。やや淡い青灰色で焼成は良好。外面は平行叩き、内面は同心円文当て具の痕跡が残る。22も甕の胴部。外面は格子目叩き、内面は同心円文の当て具痕が残る。23は甕の肩部。上部は回転横ナデを施し、下部は格子目叩き。内面は同心円文当て具痕を施す。焼成も良好。24は甕の肩から胴部にかかる箇所。外面は格子目叩きの後に回転板ナデを行う。内面は同心円文の当て具痕。25は甕の胴部。外面は平行叩き、内面は同心円文の当て具痕が残り、やや薄手の作りで厚みは0.8cm。26は第1トレンチと第3トレンチの間で表面採集した甕の胴部。外面は格子目叩きの後に回転板ナデを施す。内面は同心円文の当て具痕が残る。

(5)第2トレンチ（第4、9図）

第2トレンチは第1トレンチの西側に2.0m×0.50mで設定した。表土直下に地山を検出し、第1トレンチのような盛土を確認することができなかったため、既に削平を受けていると考えられる。南端は市道によって大きく削られ、墳丘基部の検出には至らなかった。



第7図 上町古墳出土遺物実測図①(1/3)



第8図 上町古墳出土遺物実測図② (1/3)

出土遺物 (第8図)

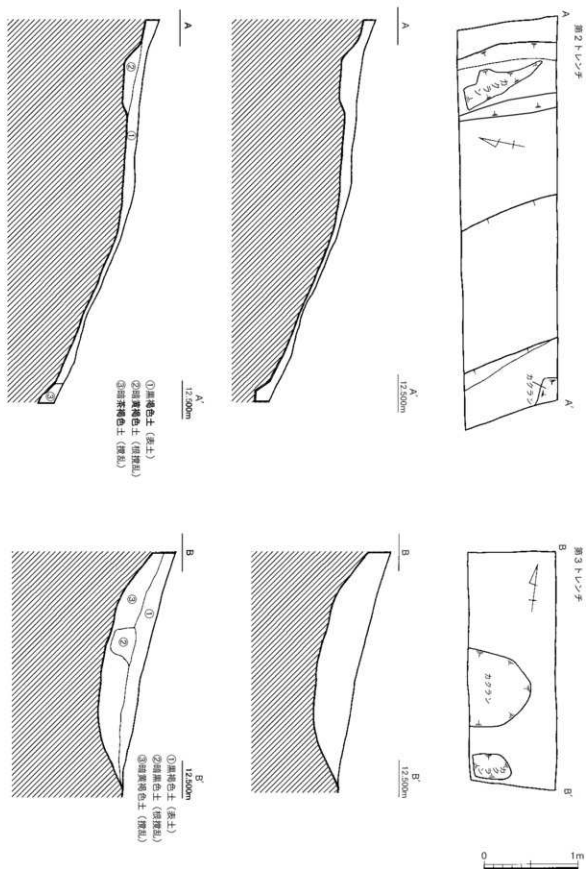
27は表土から出土した不明土器である。5.2cm程度の破片で、厚みは1.0cm。内外面ともに灰褐色を呈する。陶質で外面には円文の下にハケメのような紋様があり、その上には涙滴が逆さになったような形状の紋様が刻まれる。当初、焼成の甘い新羅土器かと思われたが類似した紋様を持つ例は確認できなかった。

(6)第3トレンチ (第4、9図)

第3トレンチは第1トレンチの東側に1.00m×0.50mで設定した。第2トレンチと同様に削平が激しく、裾部検出には至らなかった。攪乱から須恵器の甕が1片出土している。

出土遺物 (第8図)

28は第3トレンチの攪乱土から出土した甕の頸部から胴部にかけての破片である。頸部から胴にかけて緩やかに屈曲する。肩部はやや厚みを持ち、頸部及び胴部に向かって次第に薄くなっていく。外面は回転板ナデ、内面は回転ヨコナデを行う。



第9図 第2トレンチ、第3トレンチ平面図及び土層断面図 (1/40)

第4章 まとめ

市街地内にも関わらず一度も調査歴のない古墳であったが、今回、TK209及びTK217期の須恵器を確認し、6世紀末～7世紀初頭の間は古墳が継続していることが判明した。古墳の規模については、直径約28.4mの円墳と推定できる¹。この数値はあくまでも推定であり、正確な数値は今後の調査に期待したい。

また、墓道幅は第1トレンチ南側で残存部約1.90mとなり、墓道奥で排水施設と考えられる石組を検出した。石組は古墳中央部へ伸びるため全体を検出したわけではないが、暗黒灰黄褐色の締まった層で覆われており、築造時に埋められて暗渠として機能したのだろう。市内の古墳では坂の下3号墳の框石から墓道に向かって深さ0.05mほどの浅い素掘りの排水溝が検出されているが、羨道や墓道は破壊されて、どこまで伸びるか不明である。近隣では夫婦塚1号墳（福岡市早良区）が類例として挙げられる。羨道南半分から墓道にかけて、深さ0.15mほどの細長い溝を排水溝として掘り込むが、石材は用いない。他に同時期の豊前地域には玄室や羨道部に排水溝を作る例がいくつか見られる。朝岡俊也氏は豊前地域の横穴墓にも多くの排水溝が設置されることに注目し、横穴墓の構築技術や構築文化が横穴式石室に持ち込まれた結果、横穴式石室にも排水溝が設けられるようになった可能性を指摘する（朝岡2013）。その他類例として、奈良を中心に高階層の人物を埋葬した大型の終末期古墳に石組排水溝がみられ、暗渠として機能する事例が多く見られる。奈良以外では久保田山古墳群B-1号墳（京都府綾部市）、横岡山古墳（香川県高松市）、加納古墳群（大阪府南河内町）などは墓道まで伸びる石組排水溝を持つ。

本古墳は古墳時代の終わりに単独墳として築かれ、近畿地方に多い石組の排水溝を持つことから、近隣の古墳とは異なる要素を持つ。排水施設のみで言い切ることではできないが、高位の人物を埋葬した古墳と考えられる。墳丘規模のほか、石室の構造や規模など課題が多く、これらの解決は今後の調査に委ねたい。

<参考文献>

朝岡俊也2013「横穴系埋葬施設の排水溝」『福岡大学考古学論集2』福岡大学考古学研究室
遠藤啓輔2003「横穴式石室の排水溝」『続文化財学論集』文化財学論集刊行会
小川賢編2008『横岡山古墳 城所山古墳群』高松市埋蔵文化財調査報告書第111集 高松市教育委員会
上林史郎編2009『加納古墳群・平石古墳群』大

阪府教育委員会

塩屋勝利編1980『夫婦塚古墳』福岡市埋蔵文化財調査報告書第151集 福岡市教育委員会
三好博喜編2010『久保田山古墳群B支群 遺構図版編』京都府綾部市文化財調査報告書第40集 綾部市教育委員会
三好博喜編2019『久保田山古墳群B支群 本文・遺物図版編』京都府綾部市文化財調査報告書第45集 綾部市教育委員会

¹ 墳裾が削平されているため、第1トレンチで検出した現存の墳丘盛土層の標高から、地山面までの傾斜角で算出した。

图 版



1-1 上町古墳南西から市内北部を望む



1-2 上町古墳全景（南西から）

図版 2



2-1 第1トレンチ東側土層



2-2 第1トレンチ西側土層



2-3 第1トレンチ北側土層



3-1 第1トレンチ北壁墳丘盛土



3-2 第1トレンチ排水溝石組検出状況



3-3 第2トレンチ全景

図版 4



4-1 第3トレンチ全景（西から）



7-1



7-2



7-3



7-4

4-2 第1トレンチ出土遺物①



図版 6





8-21



8-22



8-23



8-24



8-25



8-26



8-27



8-28

報 告 書 抄 録

フリガナ	カンマチコフン							
書名	上町古墳							
副書名	市道横町線拡幅に伴う古墳の調査							
巻次								
シリーズ名	糸島市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第31集							
著者名	秋田雄也							
編集機関	糸島市							
所在地	〒819-1192 福岡県糸島市前原西一丁目1番1号							
発行年月日	令和6年(2024)3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
上町古墳	福岡県 糸島市 前原中央	40230		33° 55' 87"	130° 20' 36"	2022/6/15 ～ 2022/8/15	24㎡	市道拡幅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
上町古墳	墳墓	古墳	墓道、排水溝	須恵器、土師器		市内では初の 石組排水溝を検出		

上 町 古 墳

—市道横町線拡幅に伴う古墳の調査—

糸島市文化財調査報告書 第31集

令和6年(2024)3月31日

発行 糸島市
福岡県糸島市前原西一丁目1番1号
TEL 092-332-2093

印刷 樹重富プラス
福岡県糸島市前原東三丁目1番8号
TEL 092-322-0191 FAX 092-324-2661

